

# 令和8年度予算(案)のポイント (学術関係他)

# 令和8年度 文部科学省予算（案）のポイント（科学技術関係）

科学技術予算のポイント 9,863億円 (9,777億円) [5,801億円]  
※エネルギー対策特別会計への繰入額 1,079億円 (1,079億円) [236億円]を含む

## 「科学の再興」に向けた研究力の抜本的強化

### 科学技術人材の育成・活躍促進

- 優れた博士課程学生の活躍促進（特別研究員DC） 109億円（106億円）
- 次世代を担う科学技術人材育成（SSH）の強化 23億円（23億円）
- ※産業・科学革新人材事業 [270億円]

### 新興・融合領域への挑戦をはじめとする多様で卓越した研究への支援

- 科研費・創発事業による若手・新領域支援の一体改革 2,479億円 (2,379億円) [433億円]
- 戦略的創造研究推進事業（新技術シーズ創出） 441億円（438億円）

### 「AI for Science」による科学研究の革新

- 科学研究向け基盤モデルの開発・共用（TRIP-AGIS） 25億円（25億円） [28億円]
- ※AI for Scienceによる科学研究革新プログラム [370億円]
- ※先端研究基盤刷新事業（EPOCH） [530億円]

### 国際連携・国際共同研究による国際頭脳循環の活性化

- 海外特別研究員事業 28億円（28億円）
- ※先端国際共同研究推進事業／プログラム（ASPIRE） [559億円]
- ※ホライズン・ヨーロッパへの準参加 内閣府において関係省庁分を一括して措置(新規)

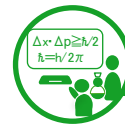
## 未来を切り拓くイノベーション創出とそれを支える基盤の強化

### 世界と伍するスタートアップ・エコシステムの形成に向けたイノベーションの創出

- 大学発スタートアップ創出とアントレプレナーシップ教育の推進 24億円（22億円） [25億円]
- 本格的産学官連携によるオープンイノベーションの推進 202億円（203億円）

### 世界最高水準の大型研究施設の整備・成果創出の促進

- 「富岳」の次世代となる新たなフラッグシップシステムの開発・整備 10億円（8億円） [373億円]
- 最先端大型研究施設の整備・共用 482億円（483億円） [51億円]
- （NanoTerasu, SPring-8/SACLA、富岳、J-PARC）
- ※SPring-8の高度化（SPring-8-II） [154億円]
- ※NanoTerasuの共用ビームライン増設 [27億円]



## 重点分野の研究開発の戦略的な推進

### AI、量子技術、マテリアル、健康・医療等の国家戦略を踏まえた研究開発

- 革新的イノベーションを支えるAI研究開発力の強化(一部再掲) 155億円 (145億円) [75億円]
- 光・量子飛躍フラッグシッププログラム（Q-LEAP） 45億円（45億円） [9億円]
- マテリアル・イノベーション創出に向けたマテリアル革新力の強化 181億円（183億円） [45億円]
- 次世代医療実現バイオバンク利活用プログラム 41億円（新規） [43億円]
- ※感染症有事に備えた治療薬・診断薬開発の拠点形成 [70億円]



## 国民の安全・安心やフロンティアの開拓に資する課題解決型研究開発の推進

### 宇宙・航空分野の研究開発の推進

- 宇宙基本計画に基づく宇宙分野の研究開発 1,518億円 (1,516億円) [1,555億円]
- 基幹ロケット打上げ能力の強化 29億円（101億円） [174億円]
- アルテミス計画に向けた研究開発等 185億円（76億円） [302億円]
- ※宇宙戦略基金の拡充（総務省、経済産業省と共に合計2,000億円を計上） [950億円]

### 海洋・極域分野の研究開発の推進

- 海洋基本計画等に基づく海洋・極域分野の研究開発 400億円（400億円） [62億円]
- 北極域研究船「みらいII」の建造を含む北極域研究の推進 57億円（35億円） [32億円]

### 防災・減災分野の研究開発の推進

- 活火山法に基づく火山本部における調査研究・人材育成の推進 13億円（13億円） [38億円]
- 地震観測網の整備等の地震調査研究の推進 27億円（27億円） [55億円]

### 環境エネルギー分野の研究開発の推進

- フュージョンエネルギーの実現に向けた研究開発の推進 208億円（207億円） [421億円]
- DX/GX両立に向けたパワーエレクトロニクス次世代化加速事業 11億円（新規）

### 原子力分野の研究開発・安全確保対策等の推進

- 原子力科学技術に関する体系的かつ総合的な取組の推進 1,474億円 (1,474億円) [300億円]
- 高温ガス炉や核燃料サイクルに係る革新的な研究開発 87億円（68億円） [30億円]
- 原子力の多様な研究開発及びそれを支える人材育成 131億円（129億円） [27億円]

# 科研費・創発事業による若手・新領域支援の一体改革

(若手研究者を中心とした挑戦的・国際的・創発的研究への支援)

令和8年度予算額 (案)	2,479億円
(前年度予算額)	2,379億円
令和7年度補正予算額	433億円



文部科学省

## 背景・課題

- 我が国の研究力は、Top10%論文数等の指標からも相対的に低下傾向となっている中、研究トピックの後追いや研究活動の国際性の低さが指摘されている。
- このため、我が国の研究力強化のためには、**若手研究者を中心に既存の学問体系に捉われないチャレンジングな研究への挑戦を後押し**するとともに、**国際ネットワークへの参入を支援**することが重要であり、**若手研究者を中心とした挑戦的・国際的・創発的研究への支援を強化**する。

### 統合イノベーション戦略2025 (令和7年6月6日閣議決定)

・既存の学問体系に捉われない研究テーマを後押しするため、科学研究費助成事業 (以下「科研費」という。) 等の競争的研究費を通じた研究力の一層の強化、科研費における国際的・若手研究者支援や創発的研究支援等を通じて研究環境改善を推進する。

### 経済財政運営と改革の基本方針2025 (令和7年6月13日閣議決定)

・科研費等の競争的研究費の充実を通じた研究力の一層の強化に取り組むべく、支援の在り方を検討する。

### 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版 (令和7年6月13日閣議決定)

・若手研究者を中心とした挑戦的・国際的・創発的研究への支援の積極的な拡充や、国際共同研究支援の拡充に取り組む。

### 「強い経済」を実現する総合経済対策 (令和7年11月21日閣議決定)

・科学研究費助成事業について、国際的研究への支援強化や若手研究者の研究時間確保のための全面基金化に向けた取組を推進することなどを通じ、大幅に拡充する。若手研究者による創発的研究への支援を強化する (略)。

## 令和7年度補正予算及び令和8年度予算 (案) の骨子

### ① 科研費 科学研究費助成事業

2,479億円 (前年度予算額 2,379億円)  
【令和7年度補正予算額 300億円】

#### 全分野の「学術研究」を支援する研究者の自由な発想に基づくボトムアップ型の競争的研究費

- ピア・レビュー (※) による厳正な審査を行い、採択率約27% (応募件数10万件) の競争を経て独自の・先駆的な研究を採択
- 研究の多様性と裾野の広がり確保することにより、新たなイノベーションの芽を創出
- 最新の研究成果を広く公開することで、すみやかに産業界や社会へ還元
- 研究者のキャリアアップや研究テーマの進展に応じて柔軟に選択できる研究種目を設定
- 研究種目、審査システム、研究費の使い勝手等について不断の見直しを実施

(※ 年齢構成や研究機関のバランスを考慮して選ばれた当該分野に精通する研究者による審査。毎年審査委員の3分の1を改選)

#### 1. 若手・新領域支援の一体改革・拡充

研究のブレークスルーをもたらすアイデアを重視し、既存の学問体系の変革を目指す「**挑戦的研究(萌芽)**」において、若手研究者の挑戦を積極的に促すための**若手支援強化枠**を設定するとともに、「**学術変革領域研究(B)**」「**基盤研究(S)**」の基金化により若手研究者の研究時間を確保し、**新興・融合領域研究**を活性化

#### 2. 国際的な研究への支援強化

若手研究者を中心に、**国際的な研究への支援を一層強化**するとともに、若手研究者の応募が多い「**基盤研究(B)**」において、**国際性を発揮することが期待できる研究**に対する研究費の重点配分を拡充

### ② 創発的研究支援事業

【令和7年度補正予算額 133億円】  
(※ 令和元年度補正予算から基金により支援実施中)

**独立前後の若手研究者(※)を対象に、7年間 (最長10年間) の安定した研究資金と、研究に専念できる環境を一体的に提供**

- 多様性と融合により破壊的イノベーションにつながる新たなシーズの創出を目指す「**創発的研究**」を支援
- 面接も含めた多段階審査により研究者の人物や研究構想を評価し、採択率約10%の競争を経て研究者を採択
- 丁寧な伴走支援に加え、**国際競争力や研究者の融合・流動性等を強化する取組 (国際共同研究やポストク等の支援など) を実施**
- 採択研究者のTop10%論文割合が我が国の平均を大きく上回るなど優れた成果を創出

#### ○ 支援内容

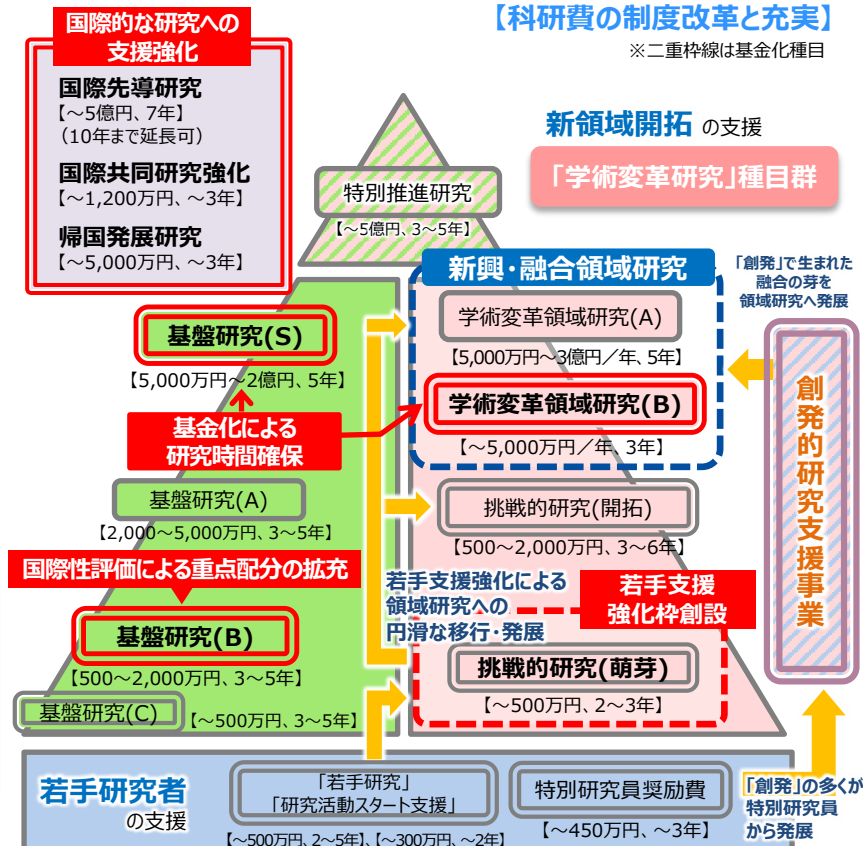
(※ 博士号取得後15年以内)

年間700万円(平均)の安定した研究資金

研究者の環境改善に努めた機関への追加支援

「創発の場」の形成 POによるメンタリング

## 若手・新領域支援の一体改革による新領域創出のイメージ



(担当：研究振興局学術研究推進課)

# 科研費を通じた研究システム改革の実現 (令和8年1月)

□ 財政審建議において示された「若手研究者の活躍機会の乏しさ」「研究の国際性の乏しさ」「資金配分の硬直性」に対応した**科研費そのものの大幅見直し**に加え、**科研費が他の取組に横串を刺し、これまでにない研究システム全体での大胆な改革**を進める。

## 若手研究者の活躍機会の拡大

### 【現状】

- ・ 国立大学本務教員(40歳未満)：30%(H16) → 22%(R4)
- ・ 科研費の採択率(40歳未満)：26%(H16) → 35%(R6)

### 【今後の取組】

- ・ 若手研究者の新領域・国際研究の拡充等(R7審査～)により若手の活躍機会を拡大するとともに、基金化(R7補正)を通じて若手の研究時間を確保

## 研究の国際性の推進

### 【現状】

- ・ 国際共著論文割合：日本36.5%(R5)  
※ 米国46.7%、英国75.5%、ドイツ64.2%

### 【今後の取組】

- ・ 国際性評価の高い研究への重点配分(R7～)や国際種目の採択枠の拡大(R7補正)、国際種目の整理・再編も検討するなど、国際的な研究を加速

## 資金配分の硬直性の打破

### 【現状】

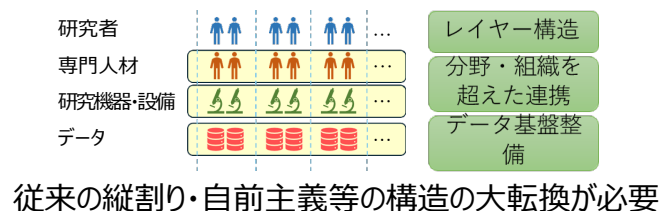
- ・ 科研費の審査システムを見直し、新たな審査区分(大型種目321→11)や方式を導入(H30)

### 【今後の取組】

- ・ 審査区分の抜本的見直し(R7パブコメ、R9～適用)や学際研究の発展に資する審査の導入(R7導入検討、R9～ 試行)など、分野硬直性の打破を加速

## 新たな時代の要請に対応した研究システム全体での改革

### 【現状】



### 【今後の取組】

#### AI for Science

- ・ 審査や研究におけるAI活用を推進し、研究の高度・加速化を支援

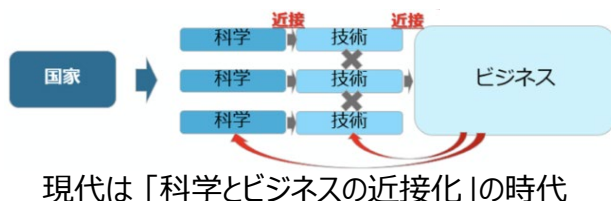
#### 先端研究基盤刷新事業(EPOCH)

～全国の研究者が挑戦できる研究基盤への刷新～

- ・ 先端設備・機器の整備・共用・高度化を推進し、競争的研究費の使途の変容促進(設備の重複確認等)

#### 組織を超えた連携

- ・ 人/データベース/戦略等においてJSPS-JSTなどFA間の相乗効果を発揮
- ・ 経済界と学術界の関係強化(民間の基礎研究グラントの掘り起こし・接続等)



**科研費と他取組・制度との連携・接続を強化し、研究システム全体の改革を実施 (今年度から順次改革に取り掛かる)**

事業内容

- 国が定めた戦略目標の下、組織・分野の枠を超えた時限的な研究体制(ネットワーク型研究所)を構築し、イノベーションの源泉となる基礎研究を戦略的に推進。
- チーム型研究のCREST、若手の登竜門となっているさきがけ、卓越したリーダーによるERATO等の競争的研究費を通じて、戦略目標の達成を目指す。
- 多様な知が集う研究領域を設定し、研究者同士の密な交流による異分野融合を促進するとともに、研究総括の柔軟で機動的な領域マネジメントにより成果を最大化。

<参考>「第6期科学技術・イノベーション基本計画」(令和3年3月26日閣議決定)

・戦略的創造研究推進事業については、2021年度以降、若手への重点支援と優れた研究者への切れ目ない支援を推進するとともに、人文・社会科学を含めた幅広い分野の研究者の結集と融合により、ポストコロナ時代を見据えた基礎研究を推進する。また、新興・融合領域への挑戦、海外挑戦の促進、国際共同研究の強化へ向け充実・改善を行う。

「経済財政運営と改革の基本方針2025」(令和7年6月13日閣議決定)

・研究時間の確保や生産性向上による基礎研究力の抜本的な強化に向け、科学技術政策全般のE B P Mを強化しつつ、教育・研究・ガバナンスの一体改革を推進する。物価上昇等も踏まえつつ運営費交付金や私学助成等の基盤的経費を確保する。科研費等の競争的研究費の充実を通じた研究力の一層の強化に取り組むべく、支援の在り方を検討する。

<p><b>文部科学省</b> 戦略目標の策定・通知</p> <p>【戦略目標の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●非連続な技術革新を目指す量子マテリアル研究</li> <li>●ゆらぎの制御・活用による革新的マテリアルの創出</li> <li>●実環境に柔軟に対応できる知能システムに関する研究開発</li> <li>●安全かつ快適な“人とAIの共生・協働社会”の実現</li> <li>●超生体組織創出への挑戦</li> </ul>	<p><b>科学技術振興機構</b></p> <p>研究領域の選定、研究総括の選任</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="369 638 795 1165"> <p><b>CREST</b></p> <p>研究領域</p> <p>研究総括 アドバイザー</p> <p>研究チームの公募・選定</p> <p>〈研究チーム〉</p> <p>研究者代表者 研究者</p> <p>トップ研究者が率いる複数のチームが研究を推進(チーム型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●研究期間：5年半</li> <li>●研究費：1.5～5億円程度/チーム(※1)</li> <li>●令和8年度新規採択予定：58課題</li> <li>●発足年度：平成7年(前身事業)(※2)</li> </ul> </div> <div data-bbox="817 638 1243 1165"> <p><b>さきがけ</b></p> <p>研究領域</p> <p>研究総括 アドバイザー</p> <p>個人研究者の公募・選定</p> <p>個人研究者 領域会議</p> <p>若手研究者が異分野ネットワークを形成し、挑戦的な研究を推進(個人型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●研究期間：3年半</li> <li>●研究費：3～4千万円程度/人(※1)</li> <li>●令和8年度新規採択予定：169課題</li> <li>●発足年度：平成3年(前身事業)(※2)</li> </ul> </div> <div data-bbox="1265 638 1657 1165"> <p><b>ACT-X</b></p> <p>研究領域</p> <p>研究総括 アドバイザー</p> <p>個人研究者の公募・選定</p> <p>個人研究者 領域会議</p> <p>博士号取得後8年未満の研究者の「個の確立」を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●研究期間：2年半</li> <li>●研究費：0.5～1.5千万円程度/人(※1)</li> <li>●令和8年度新規採択予定：115課題</li> <li>●発足年度：令和元年</li> </ul> </div> </div>			<p>卓越した人物を研究総括として選抜</p> <p>研究領域(プロジェクト)</p> <p>研究総括</p> <p>研究グループ 研究グループ</p> <p>卓越したリーダーによる独創的な研究の推進・新分野の開拓(総括実施型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●研究期間：5年程度</li> <li>●研究費：上限12億円程度/1プロジェクト(※1)</li> <li>●令和8年度新規採択予定：3課題</li> <li>●発足年度：昭和56年(前身事業)(※2)</li> </ul> <p>※1:研究費(直接経費)は、研究期間通しての総額 ※2:平成14年に本事業のプログラムとして再編成</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

これまでの成果

- Top10%論文(論文被引用数が上位10%)の割合が17%程度(日本全体平均は9%)を占めるなど、インパクトの大きい成果を数多く創出。
- クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞を15名輩出するなど、トップレベル研究者を多数輩出。

令和8年度予算(案)のポイント

- 次期科学技術・イノベーション基本計画の初年度として、基礎研究力の抜本的な強化に向けて**挑戦的・融合的研究への支援を切れ目なく実施**。
- さきがけ終了研究者による発展的なチーム型研究を支援し、革新的な融合領域での成果創出を加速**。(担当：科学技術・学術政策局研究開発戦略課戦略研究推進室)

<顕著な成果事例>

<p>睡眠障害ナルコレプシーの原因物質オレキシンの特定とオレキシンの治療応用(ERATO等)</p> <p>柳沢 正史 筑波大学 教授</p>	<p>iPS細胞の樹立(CREST等)</p> <p>山中 伸弥 京都大学 教授          ※2012年ノーベル生理学・医学賞受賞</p>
<p>2025年ノーベル生理学・医学賞受賞 坂口 志文 大阪大学 特任教授(さきがけ、CREST等)</p> <p>2025年ノーベル化学賞受賞 北川 進 京都大学 特別教授(ERATO等)</p>	

# 「AI for Science」による科学研究の革新

令和8年度予算額 (案)

193億円

(前年度予算額)

189億円

※運営費交付金中の推計額含む



文部科学省

## 現状・課題・事業目的

- 近年、AIを科学研究に組み込むことで、**研究の範囲やスピードに飛躍的向上**をもたらす「AI for Science」が、創造性・効率性などの観点で**科学研究の在り方に急速かつ抜本的な変革**をもたらしつつある。
- “**科学の再興**”を掲げる我が国として、AI法※の成立や急速に進展する国際潮流を踏まえ、日本固有の強みを生かした**分野横断的・組織横断的な「AI for Science」の先導的実装**に取り組むことが喫緊の課題。
- これにより、多くの意欲ある研究者及び先端的研究リソースのポテンシャルを最大化する**科学研究システムの革新**を実現し、更には産学官において広範に実装することで、我が国の**研究力・国際競争力の抜本的強化**につなげる。

## 事業内容：四つの柱

※[]内は令和7年度補正予算額

### ◆ AI駆動型研究開発の強化 180億円 (177億円) [490億円]

#### <AI基盤モデルの研究開発やデータの充実>

171億円 (169億円) [443億円]

ライフ分野等の特定の分野に固有の強みを持つ科学研究向けAI基盤モデル開発や、マテリアルデータ基盤の充実強化等を加速。

- 科学研究向けAI基盤モデルの開発・共用 (TRIP-AGIS) 25億円 (25億円) [28億円]
- AI for Scienceを加速するマテリアル研究開発の変革 49億円 (50億円) [1億円]
- AI for Scienceのユースケース創出に向けたライフ分野の研究開発の推進 97億円 (95億円) [44億円]
- AI for Scienceによる科学研究革新プログラム [370億円]

#### <AI研究開発力の強化>

生成AIの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発や理研AIPセンター等での革新的なAI研究開発を通じて「Science for AI」の取組を推進。

- 生成AIモデルの透明性・信頼性確保に向けた研究開発拠点形成 8億円 (8億円) [47億円]



AI for Science  
- 科学研究の革新 -

### ◆ 自動・自律・遠隔化による研究データ創出・活用の高効率化 2億円[572億円]

AI駆動型研究に不可欠な高品質かつ高価値な計測データの高速かつ大規模な創出、及びその質的向上と量的拡充を図りつつ、先端研究設備・機器の整備・共用・高度化や、大規模集積拠点の形成を促進。

- 大規模集積研究システム形成先導プログラム 2億円[42億円] (新規) 最先端の研究設備を集積し高度かつ高効率な研究環境を実現する拠点形成により、AI時代にふさわしい研究システムの変革を先導
- 先端研究基盤刷新事業(EPOCH) [530億円] 我が国の研究基盤を刷新し、若手を含めた全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現するため、先端的な研究設備・機器の整備・共用・高度化を推進



マテリアルズ・イノベーション・ファクトリー (英国・リバプール大学)

出典：https://www.liverpool.ac.uk/materials-innovation-factory/

### ◆ 「AI for Science」を支える次世代情報基盤の構築

科学研究向けAI基盤モデルの開発に不可欠な**計算基盤 (富岳NEXT・HPCIシステム等)**の開発・整備、運用や、今後大幅な増大が見込まれる**研究データの保存・管理、流通を支える研究データ基盤と流通基盤の強化を実施。**

- AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業 11億円 (11億円) [5億円]
- AI for Scienceに不可欠な計算基盤の環境整備 [76億円]

研究力の抜本的強化  
「科学の再興」へ



※予算額 (案) の総額には含まない

### ◆ 世界を先導する戦略的な産学・国際連携

AI for Scienceを世界的にリードする国内外のトップレベル機関との共同研究開発など、戦略的な産学・国際連携体制を構築・強化することで、**世界に伍する「AI for Science」プラットフォームの実装**を実現し、国際プレゼンスの向上に貢献。

- 理化学研究所における米国・アルゴンヌ国立研究所との連携 (科学技術・学術政策局) において実施 25億円の内数 (25億円の内数) [28億円の内数]



※AI for Scienceを支える幅広い人材の育成を併せて推進。

(担当：研究振興局参事官 (情報担当) 付、科学技術・学術政策局参事官 (研究環境担当) 付、研究振興局 基礎・基盤研究課、大学研究基盤整備課、ライフサイエンス課、参事官 (ナノテクノロジー・物質・材料担当) 付)

# 革新的イノベーションを支えるAI研究開発力の強化

令和8年度予算額（案） 155億円  
 （前年度予算額 145億円）  
 ※運営費交付金中の推計額含む  
 令和7年度補正予算額 75億円



文部科学省

我が国の科学技術競争力を強化するとともに、国民が生成AIに対して感じるリスクの声に応えるため、

- ① アカデミアを中心としたオープンな生成AIモデル研究開発を通じた**透明性・信頼性の確保によるリスクの軽減**
- ② 開発された**基盤モデル**を活用した、**科学研究向けAI基盤モデルの開発及び多様な科学分野での利活用**
- ③ 若手研究者・博士後期課程学生に対する**人材育成**

を推進し、「AI for Science」による科学研究の革新を支えることをはじめとするAIの基礎的な研究開発力を国内で醸成する。

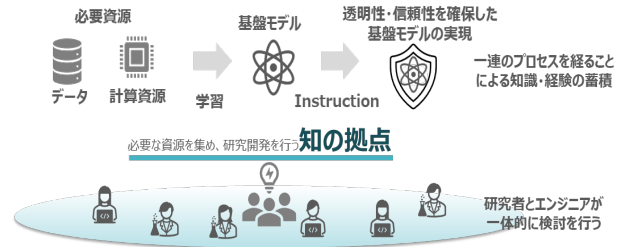
また、これらの取組を支える**革新的なAI基盤技術の研究開発等を行うAIPセンターの取組を推進**するとともに、JSTのファンディングを通じた**全国の大学・研究機関等のAI関連の研究支援を推進**する。

## AIの開発力強化と人材育成の推進

### 生成AIモデルの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発拠点形成

令和8年度予算額（案）：8億円（8億円）  
 令和7年度補正予算額：47億円

- ✓ 国立情報学研究所（NII）において、生成AIモデルの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発を実施。
- ✓ 最近の研究動向を踏まえ、①研究開発用基盤モデルの構築や、②透明性・信頼性・社会受容性に関する研究開発、③モデルの高度化に関する研究開発等を実施。



### 科学研究向けAI基盤モデルの開発・共有（TRIP-AGIS）

令和8年度予算額（案）：25億円（25億円）  
 令和7年度補正予算額：28億円  
 ※理化学研究所運営費交付金中の推計額

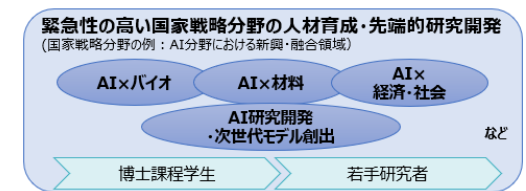
- ✓ 特定科学分野（ドメイン）に強い他の研究機関と連携し、基盤モデルを活用して、科学研究データを追加学習等することで、ドメイン指向の科学研究向けAI基盤モデル（科学基盤モデル）や、**科学基盤モデルと研究者をつなぐAIエージェントを開発**するとともに、**科学基盤モデルの開発・運用に最適化されたネットワーク環境を整備**。
- ✓ 米国のAI for Scienceの中核機関とも深く連携することで、世界に先駆けて科学基盤モデルを開発。その利用を産学に広く開放することで、多様な分野における科学研究の革新をねらう。



### 国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成（次世代AI人材育成プログラム）

※ 別途、令和5年度補正予算により、基金措置（JST）[213億円]

- ✓ 緊急性の高い国家戦略分野として、次世代AI分野を設定し、人材育成及び先端的研究開発を推進。
- ✓ 若手研究者支援：所属機関に関わらず、最適な場所を求めて自由に独立して研究に従事し、ステップアップできる環境を構築、処遇向上。
- ✓ 博士学生支援：十分な生活費相当額及び研究費をインセンティブ付与。



知見・人材・ノウハウ等の共有・活用を通じて、民間主導の大規模基盤モデル構築に資する環境整備を推進

## AIP: 人工知能/ビッグデータ/IoT/サイバーセキュリティ統合プロジェクト

**AIP** 革新知能統合研究センター（AIPセンター）  
 理化学研究所【拠点】

令和8年度予算額（案）：27億円（28億円）  
 ※理化学研究所運営費交付金中の推計額含む

機械学習の数理的研究やAI for Scienceに資する研究に加え、実世界における汎用AI技術の理論構築に向けた基盤研究を推進するとともに、国内外の研究機関等の連携・人材育成を強化することで、我が国のAI研究力の底上げと国際的なプレゼンス向上を図る。

**JST** 戦略的創造研究推進事業（一部）  
 科学技術振興機構【ファンディング】

令和8年度予算額（案）：94億円（84億円）  
 ※科学技術振興機構運営費交付金中の推計額

AI for Science に資する研究課題を含む情報科学技術に関連する幅広い研究領域を束ねた仮想的な研究所「AIPネットワークラボ」を構成し、新たなイノベーションを切り拓く独創的な研究を推進。優れた研究成果の最大化を目指す。

一体的に推進

（担当：研究振興局参事官（情報担当）付）

# 科学技術人材の育成・活躍促進

令和8年度予算額（案）  
（前年度予算額）

247億円  
245億円

※運営費交付金中の推計額含む



文部科学省

令和7年度補正予算額

277億円

- ◇ 科学技術や人材に係る政策は、産業競争力や総合的安全保障、地球規模の課題解決に直結するものとして、国家間の競争が一層激化。我が国としても、**科学技術や人材の力こそが国の存立・発展の礎**であると認識することが必要。
- ◇ 科学技術・イノベーション政策の推進を担う中核的基盤である「**科学技術人材**」に関わる政策・施策等を**一体的・体系的・総合的に推進**。

## 多様な科学技術人材の育成・活躍促進

### 産学で活躍する優れた人材の確保・活躍促進

- ◆ **産業・科学革新人材事業**  
【令和7年度補正予算額 26,992百万円（基金）】

先端技術分野において、大学と産業界が連携して、研究開発を通じた人材育成を推進。大学の人事・給与マネジメント改革を一体的に実施。人的資本への投資拡充に向けた好循環の実現を目指す。

### 研究費の質的・量的な充実確保

- ◆ **特別研究員（PD・RPD）**  
5,242百万円（5,353百万円）

PD：優れた研究能力を有する者が、研究に専念し、研究者としての能力を向上できるよう支援。  
RPD：優れた研究能力を有する者が、出産・育児による研究中断後、円滑に研究現場に復帰して、研究に専念し、研究者としての能力を向上できるよう支援。

### 大学等で活躍する高度専門人材の育成・確保

- ◆ **研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業**  
620百万円（553百万円）

我が国全体の研究開発マネジメント人材の量的不足の解消及び質の向上を図るとともに、適切な処遇・キャリアパスの確立を推進するため、研究開発マネジメント人材の確保・育成等に取り組む意欲のある機関を支援。

## 各教育段階における科学技術人材の育成

### 大学院における教育研究活動の充実・強化

- ◆ **特別研究員（DC）**  
10,938百万円（10,635百万円）

優れた研究能力を有する博士後期課程学生に対し、経済的に不安を感じることなく、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念できるよう支援。

- ◆ **博士後期課程学生の処遇向上と研究環境確保**  
31百万円（31百万円）

令和5年度補正予算により、基金措置【49,901百万円】

※別途、大学ファンドの運用益も充当

優秀で志のある博士後期課程学生が研究に専念するための経済的支援及び博士人材が産業界等を含め幅広く活躍するためのキャリアパス整備を一体として行う実力と意欲のある大学を支援。



SPRING

### 初等中等教育段階の科学技術人材の育成

- ◆ **スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業** 2,290百万円（2,287百万円）

先進的な理数系教育や、文理融合領域に関する研究開発を実施する高等学校等を指定。類型に応じた支援金額の重点配分を行うなど、各指定校の取組の高度化・深化を促すための事業改善を段階的に導入。

- ◆ **次世代科学技術チャレンジプログラム（STELLA）** 926百万円（937百万円）

理数分野で卓越した才能を持つ小中高校の児童生徒を対象とした、大学等の育成活動を支援。科学技術人材の裾野拡大にも寄与しつつ、トップレベル人材育成を一層強化。

- ◆ **女子中高生の理系進路選択支援プログラム** 92百万円（79百万円）

理系分野へ進む女子生徒を増やすため、出前授業、理系ロールモデルとしての女性研究者等との交流、保護者・教員の理系キャリアへの理解増進等、地域で継続的に行われる取組を推進。

- ◆ **未来共創推進事業** 3,163百万円（3,163百万円）

【令和7年度補正予算額 750百万円】

日本科学未来館の新たな来館者層の開拓や、「サイエンスポータル」「サイエンステーム」等を活用したSTEAM教育機能強化を実施。



## 科学技術人材に関わる制度・システム改革の推進

- ◆ **ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ** 1,158百万円（1,133百万円）

研究と出産・育児等の両立や、女性研究者のリーダーの育成を推進する大学等の取組を支援。

- ◆ **産業・科学革新人材事業【再掲】**

【令和7年度補正予算額 26,992百万円（基金）】

（担当：科学技術・学術政策局人材政策課）

**背景・課題**

- 国際的な頭脳獲得競争が激化する中、**優れた研究人材が世界中から集う“国際頭脳循環のハブ”**となる研究拠点の更なる強化が必要不可欠。
- WPI開始（平成19年度）から18年を経て、世界トップクラスの機関と並ぶ、卓越した研究力と優れた国際研究環境を有する**世界から「目に見える拠点」を構築**。大学等に研究マネジメントや国際研究環境の構築手法等のグッドプラクティスが蓄積し、**WPIは極めて高い実績とレピュテーションを有している**。
- 世界の研究大学が大きな変革期を迎えるなか、日本の大学・研究機関全体を「公共財」と捉え、**世界トップレベルの基礎科学を10~20年先を見据えた視座から推進**していくことが必要。

〔世界トップレベル研究拠点プログラム（以下「WPI」という。）による世界トップレベルの国際研究拠点の構築（中略）を進める。  
(統合イノベーション戦略2025（令和7年6月6日 閣議決定））〕

**事業概要**

**3つのミッション**を掲げ、大学等への集中的な支援により**研究システム改革等の取組を促進**し、高度に国際化された研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る**国際研究拠点の充実・強化**を図る。

**3つのミッション**

世界を先導する卓越研究と国際的地位の確立

国際的な研究環境と組織改革

次代を先導する価値創造

**事業スキーム**

- 対象領域 基礎研究分野において、**日本発で主導する新しい学問領域を創出**
- 支援規模 最大7億円/年×10年+最大3億円/年×最大5年間
- 拠点規模 総勢70~100人程度以上、世界トップレベルのPIが7~10人程度以上
- 外国人比率等 研究者の**30%以上が外国からの研究者**
- 事業評価 ノーベル賞受賞者や著名外国人研究者で構成されるプログラム委員会やPD・POによる**丁寧かつきめ細やかな進捗管理・成果分析**を実施
- 支援対象経費 人件費、事業推進費、旅費、設備備品費等 ※研究プロジェクト費は除く

**これまでの成果**

- 5名の研究者がWPI拠点在籍中にノーベル賞を受賞（※）**
- (※) iCeMS 山中伸弥 博士 (H24 生理学・医学) Kavli-IPMU 梶田隆章 博士 (H27 物理) ICReDD Benjamin List 博士 (R3 化学) IFReC 坂口志文 博士 (R7 生理学・医学) iCeMS 北川進 博士 (R7 化学)
- 研究の卓越性は世界トップレベルの研究機関と比肩し、**Top10%論文数の割合も高水準（概ね20~25%）**を維持
- 「アンダーワンルーフ」型の研究環境の強み**を活かし、**分野横断的な領域の開拓**に貢献
- 高度に国際化された研究環境**を実現 (外国人研究者割合は約3割以上、ポストドクは全て国際公募)
- 拠点長を中心とした**トップダウン型マネジメント**など、研究システム改革を実現
- 民間企業や財団等から大型の寄附金・支援金**を獲得、基礎研究に専念できる環境と社会との**資金の好循環を実現**



異分野融合を促す研究者交流の場 (Kavli IPMU)

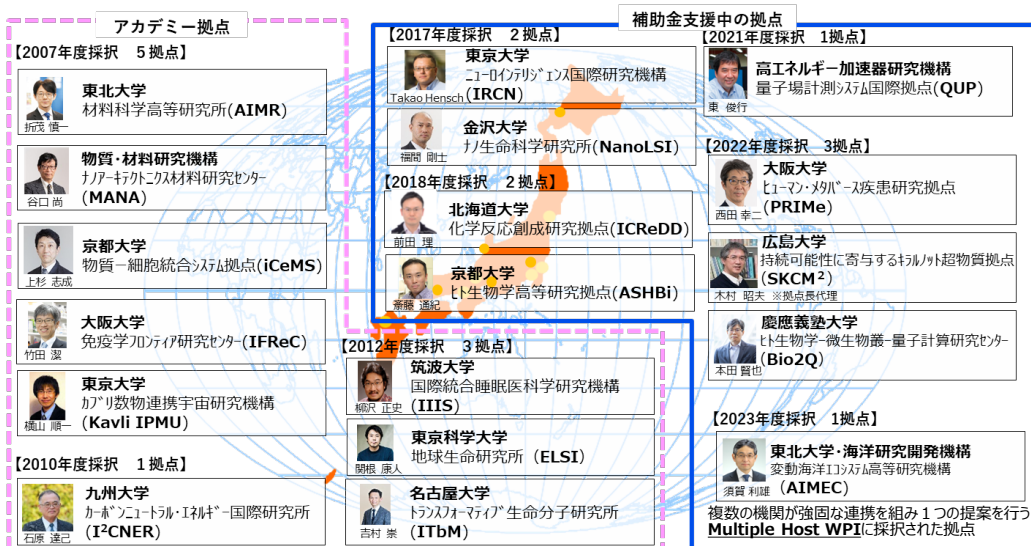
例：大阪大学IFReCと製薬企業2社の包括連携契約（10年で100億円+a）  
東京大学Kavli IPMUは米国カブリ財団からの22.5億円の寄附により基金を造成

(担当：研究振興局基礎・基盤研究課)

**WPI拠点一覧**

※令和7年12月時点

**【WPI拠点一覧】**



# 人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業

令和8年度予算額（案） 1億円  
（前年度予算額 1億円）



## 背景・課題

- 国際共通性・機械可読性のある良質な学術データの開発・整備やネットワーク化、大量のデータを利用した研究の効率化・加速化や深化、巨視的研究の実施など、諸外国では人文学研究のデジタル化（「デジタル・ヒューマニティーズ（DH）」）を積極的に推進。こうしたDHに係る世界的動向への対応や総合知の創出にも資する観点から、国内学術機関の協働体制を構築し、分野に適したデータ規格のモデルガイドラインや人材育成プログラムの開発など、DX化のための基盤開発が必要。
- 総合的・計画的な人文学・社会科学の振興に向けて、我が国全体の人文学・社会科学の研究動向・成果を把握するためのモニタリング手法の確立が喫緊の課題。とくに、同分野では、研究成果の主な発表媒体として、個人の研究成果を体系化した「書籍」が重要な位置を占めており、論文データだけでなく、書籍データも活用した研究動向や成果の調査・分析が必要。加えて、人文学・社会科学の特性を踏まえ、社会・経済・文化等への中長期的・多面的なインパクトや、SNS等の新たな指標を活用した成果発信等に係る検討が必要。

## 事業の概要

（事業期間：令和6年度～令和8年度）

【事業の目的】 我が国の人文諸分野のDX化を推進するため、国内学術機関で構成する「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」を立ち上げ、協働体制を構築し、良質な人文系学術資料のデータの作成・利活用促進のための基盤開発を推進する。併せて、我が国の人文学・社会科学の総合的・計画的な振興に資するため、同分野の研究活動の成果をデータ分析により可視化・発信するための研究開発を実施する。

### I. データ基盤の開発に向けたデジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアムの運営

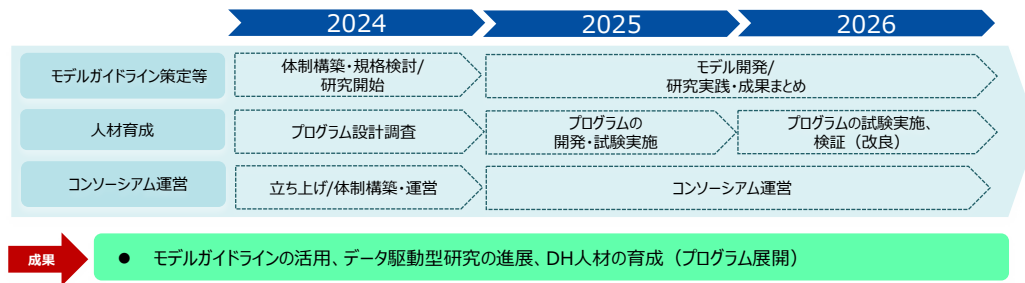
※国内諸機関で協働体制を構築し、以下の取組等を実施

- (A) データ規格のモデルガイドラインの策定、データ利活用研究のユースケースの創出
- (B) 人文系学術資料のデータ構築やデータ・AI利活用研究を可能とする人材の育成（教育プログラムの開発・実施・検証）
- (C) 「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」の設置・運営

※ 国から実施機関（中核機関）への委託（1機関×64百万円×3年）



データ規格の統一による複数画像比較

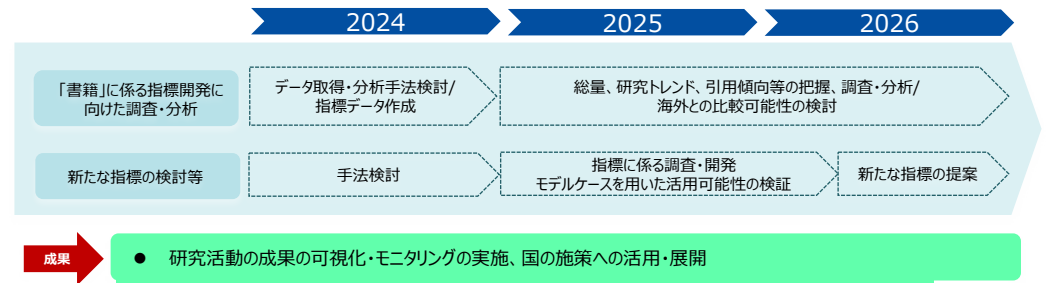


### II. 人文学・社会科学におけるデータ分析による成果の可視化に向けた研究開発

※ モニタリング指標の開発に向けた調査・分析

- (D) 「書籍」に係る指標開発に向けた調査・分析  
➢ 総量、研究トレンド、引用傾向・特徴の把握、国際比較のための検討、調査・分析
- (E) 社会的インパクト、書評等の人文学・社会科学における新たな指標開発の検討・提案

※ 国から実施機関への委託（1機関×32百万円×3年）



- 第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）：『人文学・社会科学の厚みのある「知」の蓄積を図るとともに、自然科学の「知」との融合による、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する「総合知」の創出・活用がますます重要』  
『人文学・社会科学や総合知に関連する指標について2022年度までに検討を行い、2023年度以降モニタリングを実施する』
- 「統合イノベーション戦略2025」（令和7年6月6日閣議決定）：『人文学・社会科学も含めた総合知の活用が重要』 『人文学・社会科学について、総合的・計画的に振興するとともに、自然科学の知と連携・協働を促進し、分野の垣根を超えた「総合知」の創出を進める。』
- 「デジタルアーカイブ戦略2026-2030」（令和7年5月デジタルアーカイブ戦略懇談会・デジタルアーカイブ推進に関する検討会決定）：『デジタル文化資産・学術資料等の横断的な検索及び利活用を促進します。』  
『デジタルアーカイブに関する専門的知見を有する人材の確保、養成及び資質能力の向上に向けた必要な取組を推進します。』

# 科学技術・イノベーションの戦略的な国際展開

令和8年度予算額（案）	139億円
（前年度予算額	143億円
※運営費交付金中の推計額含む	
令和7年度補正予算額	500億円



文部科学省

## ●国際化・国際頭脳循環、国際共同研究、国際協力等に取り組み、科学技術の戦略的な国際展開を一層推進

※ホライズン・ヨーロッパへの準参加として、内閣府において関係省庁分を一括して措置（新規）

◆「経済財政運営と改革の基本方針2025」、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年」（令和7年6月閣議決定）等に基づき、G7をはじめとする同志国やASEAN・インドを含むグローバル・サウス諸国との国際共同研究、人材交流等、科学技術の国際展開に資する施策を推進する。

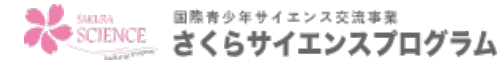
### ◆第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月閣議決定）

多くの研究者が、海外の異なる研究文化・環境の下で研さん・経験を積めるようにし、研究者としてのキャリアのステップアップと、海外研究者との国際研究ネットワークの構築を図る。あわせて、世界中から意欲ある優秀な研究者を引き付ける魅力的な研究拠点を形成し、トップレベルの研究者をオンラインを含めて迎え入れる。これらのネットワークを活用した国際共同研究を推進することにより、互いに刺激し合い、これまでにない新たな発想が次々と生まれる環境を整備する。

## 海外研究者の招へい・研究者の海外派遣等

### 国際青少年サイエンス交流事業

令和8年度予算額（案）：18億円（前年度予算額：18億円）



◆海外の優秀な人材の獲得、国際頭脳循環、及び海外の国・地域との友好関係強化や科学技術外交への貢献を目的として、科学技術分野における海外との青少年交流を促進する。

### 外国人研究者招へい事業

令和8年度予算額（案）：34億円（前年度予算額：34億円）

### 海外特別研究員事業

令和8年度予算額（案）：28億円（前年度予算額：28億円）

◆優秀な外国人若手研究者等を大学等研究機関に招へいし、我が国の研究者と外国人若手研究者等との研究協力関係を通じ、国際化の進展を図る。

◆博士の学位を有する優れた若手研究者を海外に派遣し、大学等研究機関において長期間（2年間）研究に専念できるよう支援する。

## 国・FA主導で取り組むトップダウン型の国際共同研究

### 先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）



令和7年度補正予算額 [500億円]（基金）

- ◆既に高い科学技術水準を有する欧米等先進国を対象として、大型国際共同研究を戦略的・機動的に実施する。
- ◆同志国として将来のポテンシャルを有するインドを対象として、若手人材の招へいを通じた国際国際共同研究を実施する。

### 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）

令和8年度予算額（案）：10億円（前年度予算額：11億円）

◆新興国や多国間を中心として、多様な分野・体制を設け最適な協力形態を組み、相手国との合意に基づく国際共同研究を推進する。

### 日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）



令和5年度補正予算により基金措置[146億円]

◆ASEAN諸国との長年にわたる科学技術分野での交流実績を基盤としつつ、共同研究、人材交流・育成など、幅広い取組を通じ、持続可能な研究協力関係を強化する。

### 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）



令和8年度予算額（案）：19億円（前年度予算額：20億円）

◆国際協力によるSTI for SDGsを体現するプログラム。開発途上国のニーズに基づき地球規模課題の解決と将来的な社会実装に向けた国際共同研究を推進する。

# 科学技術イノベーション・システムの構築

令和8年度予算額（案） 226億円  
 （前年度予算額） 225億円  
 ※運営費交付金中の推計額含む  
 令和7年度補正予算額 25億円



文部科学省

## 背景・目的

新たな社会や経済への変革が世界的に進む中、デジタル技術も活用しつつ、未来を先導するイノベーション・エコシステムの維持・強化が不可欠。特に、我が国全体の研究力の底上げを図るためには、令和6年2月に改定された「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」も踏まえ、全国に存在する様々な機能を担う多様な大学が、戦略的な経営の展開を通じて自身の強みや特色を発揮し、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップが実現できる環境を整備することが求められている。

さらに、新しい資本主義の実現に向けて策定された、経済成長や社会課題解決の鍵となる「スタートアップ育成5か年計画」（令和4年11月策定）の実現に向け、大学発スタートアップの創出・創業後間もない段階における成長支援や、その基盤となる人材育成の強化に取り組む。

## 大学発スタートアップ創出・成長支援とアントレプレナーシップ教育の推進

24億円（22億円）\*

- 研究シーズの事業化を支援するギャップファンドや事業化人材育成を含む一体的なスタートアップ支援により、大学を中心としたスタートアップ・エコシステムの形成を推進する。アントレプレナーシップ教育について、学校現場への起業家等の派遣や海外派遣等の実践的な教育プログラムの開発・提供など、小中高から大学院（博士等）まで全国の幅広い層へ教育プログラムを提供し、人材育成の質・量の充実を図る。
- さらに、大学をハブとしたスタートアップと大企業の協働による次世代型のオープンイノベーションを通じ、創業後間もないスタートアップの成長を支援する。

- ・大学発新産業創出プログラム（START） 20億円（19億円）
- ・全国アントレプレナーシップ醸成促進事業 2億円（1億円）
- ・次世代型オープンイノベーションの構築 2億円（1億円）

※別途令和4年度第2次補正予算により、大学発スタートアップ創出の抜本的強化の基金を措置（JST）[988億円]

\*このほか、令和7年度補正予算において、出資型新事業創出支援プログラム（SUCCESS）への出資等で25億円を措置。



## 本格的産学官連携によるイノベーション創出や地域振興の推進

202億円（203億円）

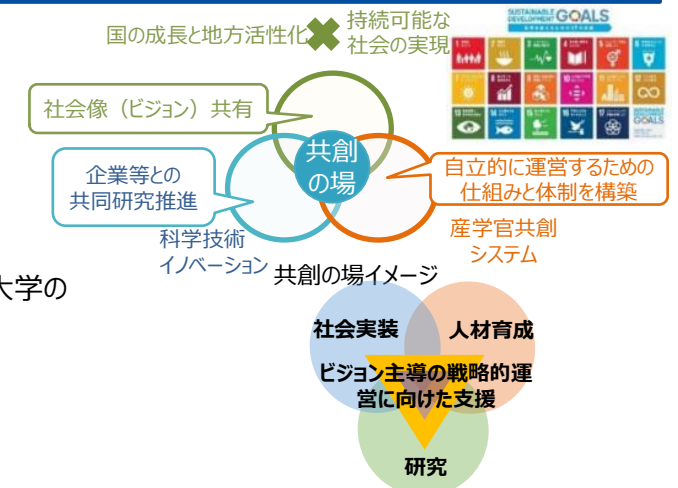
- 企業の事業戦略に深く関わる大型共同研究の集中的マネジメント体制の構築、政策的重要性が高い領域や地域発のイノベーションの創出につながる独自性や新規性のある産学官共創拠点の形成など、産学官連携による新たな価値の共創を推進する。

- ・共創の場形成支援（COI-NEXT） 134億円（134億円）
- ・研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） 46億円（46億円）

- 「知と人材の集積拠点」である多様な大学の力を最大限活用して社会変革を推進していくため、地域の中核となる大学のミッション・ビジョンに基づく戦略的運営に向けて、強み・特色を生かした核となる先端的な取組の形成を支援する。

- ・地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS） 2億円（2億円）

※別途令和4年度第2次補正予算により、地域中核研究大学等強化促進基金を措置（JSPS）[1,498億円]



地域中核・特色ある研究大学強化のイメージ

（担当：科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課）

# 世界最高水準の大型研究施設の整備・利活用

令和8年度予算額(案) 492億円  
(前年度予算額 491億円)  
令和7年度補正予算額 605億円



文部科学省

特定先端大型研究施設の共用の促進に関する法律に基づき、我が国が世界に誇る最先端の大型研究施設の整備・共用を進めることで、あらゆる分野で世界を先導する研究成果を創出し、研究力強化や生産性向上に貢献する。さらに、国際競争の激化を踏まえ、施設の更なる高度化を進めることで、世界最高水準の性能を達成する。

## ① 3GeV高輝度放射光施設「NanoTerasu」

4,503百万円(4,213百万円)  
令和7年度補正予算額 2,696百万円

官民地域パートナーシップにより整備。  
安定的な運転に加え、ユーザーニーズに沿った  
共用ビームライン増設に向けた取組を推進。



## ② 大強度陽子加速器施設「J-PARC」

11,114百万円(10,943百万円)  
令和7年度補正予算額 1,833百万円

世界最高レベルの大強度陽子ビームから生成  
される2次粒子ビームを利用し、広範な分野  
において先導的な研究成果を創出。



## ③-1 大型放射光施設「SPring-8」/ X線自由電子レーザー施設「SACLA」

15,903百万円(15,858百万円)  
令和7年度補正予算額 2,118百万円

### 【SPring-8】

世界最高性能の放射光の共用を促進し、  
産学共にインパクトの高い成果を創出。

### 【SACLA】

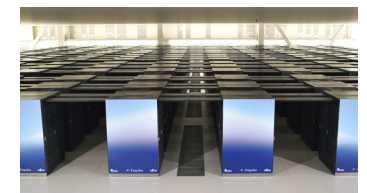
原子レベルの構造解析や化学反応の変化  
の瞬時計測等、最先端研究を先導。



## ④-1 スーパーコンピュータ「富岳」・HPCIの運営

16,703百万円(17,295百万円)  
令和7年度補正予算額 1,142百万円

スーパーコンピュータ「富岳」を中核とし、多様な  
利用者のニーズに応える革新的な計算環境  
(HPCI:革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング  
インフラ)を構築し、その利用を推進することで、  
我が国の科学技術の発展、産業競争力の強化、  
安全・安心な社会の構築に貢献。



## ③-2 SPring-8の高度化(SPring-8-II)

令和7年度補正予算額 15,400百万円

- 2030年頃の次世代半導体やGX社会の実現など産業・社会の大きな  
転機を見据え、現行の100倍の輝度をもつ世界最高峰の放射光施設  
を目指し、SPring-8-IIの整備を実施する。
- 具体的には、加速器、ビームライン等を刷新し、2位の米国に2倍以上  
の差を付けて世界1位の性能を実現することで、未来の産業を先導する  
最重要基盤施設となる。

## ④-2 「富岳」の次世代となる新たなフラッグシップシステムの開発・整備

1,008百万円(823百万円)  
令和7年度補正予算額 37,318百万円

- 2030年頃までの運転開始に向けて、「富岳」の次世代となる新たなフラッグ  
シップシステムの開発・整備を遅滞なく実施。
- AI for Scienceをはじめとした新たな時代を先導し、あらゆる分野で世界  
最高水準の計算能力を提供することで、様々な社会課題の解決や、国産  
技術を国際市場に効果的に訴求することを目指す。

# 共同利用・共同研究システム形成事業

令和8年度予算額（案）	8億円
（前年度予算額）	7億円
令和7年度補正予算額	52億円



文部科学省

## 背景

- 我が国全体の研究力を底上げするには、大規模な研究大学の支援にとどまらず、**全国の国公立大学等に広く点在する研究者のポテンシャルを引き出す**必要がある。他方で、各大学単位の成長や競争が重視される中、大学の枠にとどまらない研究組織の連携が進みにくい状況がある。
- 我が国では、**個々の大学の枠を超えて大型・最先端の研究設備や大量・希少な学術資料・データ等を全国の研究者が共同利用・共同研究する仕組みが整備**され、学術研究の発展に大きく貢献してきている。

## 目的

- 各研究分野単位で形成された共同利用・共同研究体制について、分野の枠を超えた連携による、**新しい学際研究領域のネットワーク形成・開拓促進**に加え、**中規模研究設備の整備による共同利用・共同研究体制の強化・充実**や、**先端研究設備の集積・自動/自律化・遠隔化による新たな共同利用サービスの実現**によって、我が国における研究の厚みを大きくするとともに、全国的な次世代の人材育成や意欲・能力ある研究者を支援する。【令和5年度より事業開始】

## 事業概要



### 組織・分野を超えた新しい学際研究ネットワークの形成

#### 学際領域展開ハブ形成プログラム

5.5億円（前年度：5.5億円）

大学共同利用機関や共同利用・共同研究拠点等がハブとなって行う、**異分野の研究を行う大学の研究所や研究機関と連携した学際共同研究、組織・分野を超えた研究ネットワークの構築・強化・拡大**を推進。

- 【支援内容】学際的共同研究費、共同研究マネジメント経費等
- 【支援額】5千万円基準
- 【支援期間】最長10年間（中間年度にステージゲートを設定）



### 共同利用・共同研究機能の中核を担う新規技術・設備開発要素が含まれる最先端の中規模研究設備の整備

#### 大学の枠を超えた研究基盤設備強化・充実プログラム

【令和7年度補正予算額 10億円】

大学の枠を超えて、**学外へ開かれた利用を前提とした新規技術・設備開発要素が含まれる最先端の中規模研究設備の整備**により、**共同利用・共同研究体制の強化・充実**を推進。

- 【支援内容】設備の整備に係る経費
- 【支援額】10億円（1件あたり上限5億円）
- 【支援件数】2件程度



### 公私立大学の共同利用・共同研究拠点の機能強化

#### 特色ある共同利用・共同研究拠点支援プログラム

0.7億円（前年度：1.1億円）

文部科学大臣の認定を受けた**公私立大学の共同利用・共同研究拠点を対象に、拠点機能の更なる強化**を図る取組等を支援。

- 【支援内容】運営委員会経費、共同研究旅費、シンポジウム開催経費等
- 【支援額・支援期間】以下の2種類の支援メニューを設定
  - ・機能強化支援(1拠点あたり上限3千万円・3年間支援)
  - ・スタートアップ支援(1拠点あたり上限4千万円・3年間支援)
- 【R8採択件数】機能強化支援1件（継続2件）



### 大規模なオートメーション/クラウドラボの形成による新たな共同利用サービスの実現

#### 大規模集積研究システム形成先導プログラム

1.6億円【令和7年度補正予算額 42億円】

**先端研究設備の大規模集積・自動/自律化・遠隔化と一体的な研究支援により、意欲・能力ある研究者が時間・空間を超えて、組織や分野を問わず共創するAI時代にふさわしい新たな研究システムを形成。**

- 【支援内容】大規模集積研究システムの整備及び運用に係る経費
- 【支援額】1.6億円（令和7年度補正予算額 42億円）
- 【支援期間】4年間
- 【支援件数】1件

経済財政運営と改革の基本方針2025～「今日より明日はよくなる」と実感できる社会へ～  
(令和7年6月13日閣議決定)

第2章 質上げを起点とした成長型経済の実現  
3. 「投資立国」及び「資産運用立国」による将来の賃金・所得の増加  
(4) 先端科学技術の推進  
(略) 先端研究設備・機器の戦略的な整備・共用・高度化を推進する仕組みを構築する。研究データの活用を支える情報基盤の強化やAI for Scienceを通じ、科学研究を革新する。

新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版(令和7年6月13日閣議決定)

V. 科学技術・イノベーション力の強化  
3. 大学等の高度な研究・教育と戦略的投資の好循環の実現  
① 大学ファンドによる支援と地域中核・特色ある研究大学への支援  
(略) 研究大学や大学共同利用機関法人（個々の大学では整備できない大規模施設・設備等を全国の研究者に提供する機関）等における先端研究設備・機器の戦略的な整備・共用・高度化を進めるとともに、技術専門人材の育成・情報基盤の強化やAI for Scienceを通じ、科学研究を革新する。

統合イノベーション戦略2025  
(令和7年6月6日閣議決定)

2. 第6期基本計画の総仕上げとしての取組の加速  
(2) 知の基盤（研究力）と人材育成の強化（地域中核・特色ある研究大学振興）  
(略) 「学際領域展開ハブ形成プログラム」による組織・分野を超えた研究ネットワークの形成を進める。

② 研究施設・設備の強化、オープンサイエンスの推進  
(研究DXを支えるインフラ整備や研究施設・設備の共用化の推進)  
(略) 中規模研究設備については、組織の枠を超えた効率的・効果的な活用を目指す設備に対して重点的な支援方を推進する。

3. 第7期基本計画に向けた議論も踏まえた取組の推進  
(2) 研究力の強化、人材の育成・確保  
① 大学等の運営・研究基盤の強化  
(略) さらに、共用の場を活かした先端計測・分析機器等の開発や、大学共同利用機関における先端研究設備の大規模集積・自動化・自律化・遠隔化と伴走支援の一体的な提供により、研究環境の高度化・高効率化を進める。

## 目的

- 最先端の大型研究装置・学術研究基盤等により人類未踏の研究課題に挑み、**世界の学術研究を先導**。
- 国内外の優れた研究者を結集し、**国際的な研究拠点を形成**するとともに、国内外の研究機関に対し**研究活動の共通基盤を提供**。

## 大規模学術フロンティアの促進及び学術研究基盤の構築を推進

### これまでも学術的価値の創出に貢献

### 学術研究の大型プロジェクトの例

〔大規模学術フロンティア促進事業（12事業）等〕

#### ○ ノーベル賞受賞につながる研究成果の創出に貢献

- スーパーBファクトリーによる新しい物理法則の探求**
- スーパーカミオカンデによるニュートリノ研究の推進**

H20 小林誠氏・益川敏英氏

→「CP対称性の破れ」を実験的に証明  
※高度化前のBファクトリーによる成果

H14 小柴昌俊氏、H27 梶田隆章氏

→ニュートリノの検出、質量の存在の確認

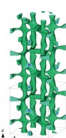
#### ○ 年間1万人以上の国内外の研究者が集結する国際的な研究環境で若手研究者の育成に貢献

#### ○ 研究成果は産業界へも波及

##### 大強度陽子加速器施設（J-PARC）

〔高エネルギー加速器研究機構〕  
最大級のビーム強度を持つ陽子加速器施設による2次粒子ビームを用いた物性解析

超イオン伝導体の結晶構造（左図）を明らかにし、新型全固体電池（右図）の開発に貢献



⇒リチウムイオンの動作の解析による安全かつ急速充電が可能な新型全固体電池開発

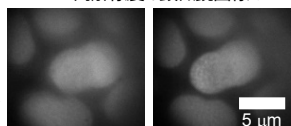
##### すばる望遠鏡

〔自然科学研究機構 国立天文台〕

大気の揺らぎを補正し、シャープな星像を得るための補償光学技術

⇒医療・生物研究用の顕微鏡への応用

補償光学を活用した、高解像度の顕微鏡画像▼

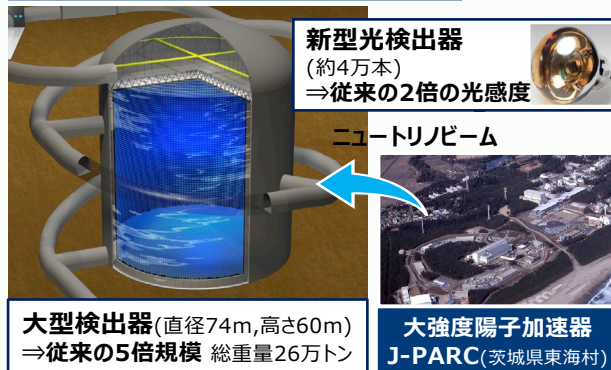


補償光学動作なし 補償光学動作あり

#### ハイパーカミオカンデ計画の推進

〔東京大学宇宙線研究所、高エネルギー加速器研究機構〕

##### ハイパーカミオカンデ（岐阜県飛騨市神岡町）



新型光検出器（約4万本）  
⇒従来の2倍の光感度

ニュートリノビーム

大型検出器（直径74m、高さ60m）  
⇒従来の5倍規模 総重量26万トン

大強度陽子加速器 J-PARC（茨城県東海村）

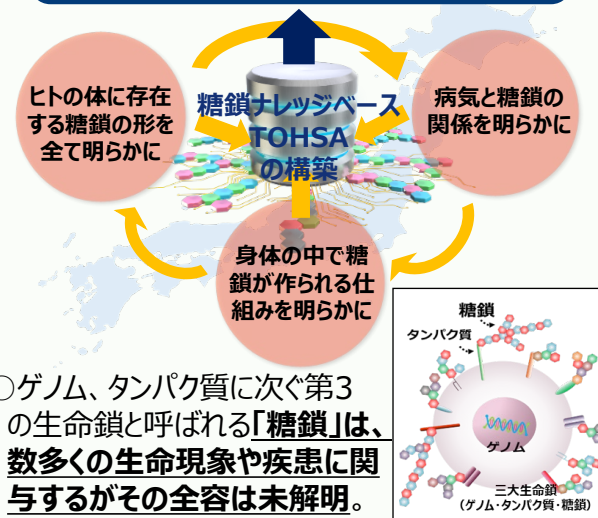
- 日本が切り開いてきたニュートリノ研究の国際協力による次世代計画として、新型の超高感度光検出器を備えた大型検出器の建設及びJ-PARCの高度化により、ニュートリノの検出性能を著しく向上。  
（スーパーカミオカンデの約10倍の観測性能）

- 素粒子物理学上の未証明な理論（大統一理論）の実証に資する長年の物理学者の夢である陽子崩壊の初観測や、物質で構成される宇宙の起源に迫るニュートリノ研究を通じ、新たな物理法則の発見、宇宙の謎の解明を目指す。

#### ヒューマングライコムプロジェクト

〔東海国立大学機構、自然科学研究機構、創価大学〕

##### 病気で苦しむことのない未来を目指して



- ゲノム、タンパク質に次ぐ第3の生命鎖と呼ばれる「糖鎖」は、数多くの生命現象や疾患に関与するがその全容は未解明。
- ヒトの糖鎖情報を網羅的に解読し、医学をはじめ幅広い研究分野との新たな連携を生み出す糖鎖情報の基盤を構築。
- ヒトの生命現象の解明、老化・認知症・がん、感染症等に関する革新的な治療法・予防法の開発を通じ、病気で苦しむことのない未来を目指すとともに、生命科学の革新を図る。

# 国立大学改革の推進

令和8年度予算額（案）  
国立大学法人運営費交付金 1兆971億円（前年度予算額 1兆784億円）  
※国立大学経営改革促進事業からの組替（53億円）を含む



文部科学省

令和7年度補正予算額 486億円  
国立大学法人運営費交付金 421億円 ※設備災害復旧費（1億円）を含む  
国立大学法人設備整備費補助金 66億円

- ▶ 国立大学法人運営費交付金は、各大学の**安定的・継続的な教育研究活動を支える基盤的経費**
- ▶ 令和8年度当初予算（案）において、**過去最大※の増額（対前年度比188億円増）**となる**1兆971億円を計上**
- ▶ 物価上昇等が継続する中においても、国立大学における**基礎研究の充実、文理融合、学長による経営改革及び自己収入確保策の強化**を図る取組を支援

※平成26年度当初予算における東日本大震災による国家公務員の給与減額支給措置の終了に伴う増額を除くと、過去最大

## 安定的・継続的な教育研究活動の支援



### 物価・人件費の上昇等を踏まえた教育研究基盤の維持

- ▶ 物価・人件費の上昇等が継続する中でも、各大学が**優秀な人材の確保や教育研究活動を実施するために必要な基幹経費を支援**
- ▶ 「ミッション実現加速化係数」（毎年度自動的に係数をかけて各大学が財源拠出し、教育研究組織整備等に充当する仕組み（約100億円））を廃止



### 教育研究設備等の整備

- ▶ DX化を通じた業務効率化に資する設備や、老朽化が深刻な**教育研究基盤設備の整備等を支援**

### 【国立大学法人等の全体としてのミッション】

- ① 不確実な社会を切り開く**世界最高水準の研究の展開とイノベーションの牽引**
- ② 変化する社会ニーズに応じた**高度専門人材の育成**
- ③ **地域社会を先導する人材の育成と地域産業の振興**

※国立大学法人等改革基本方針（令和7年11月4日 文部科学省）より抜粋



## ミッション実現に向けた改革等の推進



### 基礎研究の充実などの国立大学の機能強化

- ▶ 貴重な知的資産を創造し、イノベーションの源泉となる**基礎研究の充実**
- ▶ 社会経済課題の多様化・複雑化に対応するための**文理融合**の取組の推進
- ▶ 共同研究の推進など**自己収入確保策の強化**等の各大学の**機能強化に向けた取組を支援**



### 世界の学術フロンティアを先導する大規模プロジェクトの推進、共同利用・共同研究拠点の強化

- ▶ 人類未踏の研究課題に挑み、**世界の学術研究を先導する大規模プロジェクト**や、文部科学大臣が認定した**共同利用・共同研究拠点の活動等を支援**



### 学長による経営改革の促進

- ▶ 学長のリーダーシップにより、各大学のミッションを踏まえた**強み・特色ある教育研究活動を通じて、先導的な経営改革や自己収入確保策の強化等に取り組む大学を支援**



### 成果を中心とする実績状況に基づく配分

- ▶ 各大学の行動変容や経営改善に向けた努力を促すため、**教育研究活動の実績・成果等を客観的に評価し、その結果に基づく配分を実施（前年度から変更なし）**

（配分対象経費：1,000億円  
配分率：75%～125%（指定国立大学法人は70%～130%））

# 光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP)

令和8年度予算額 (案)  
(前年度予算額)

45億円  
45億円



文部科学省

令和7年度補正予算額

9億円

## 背景・概要

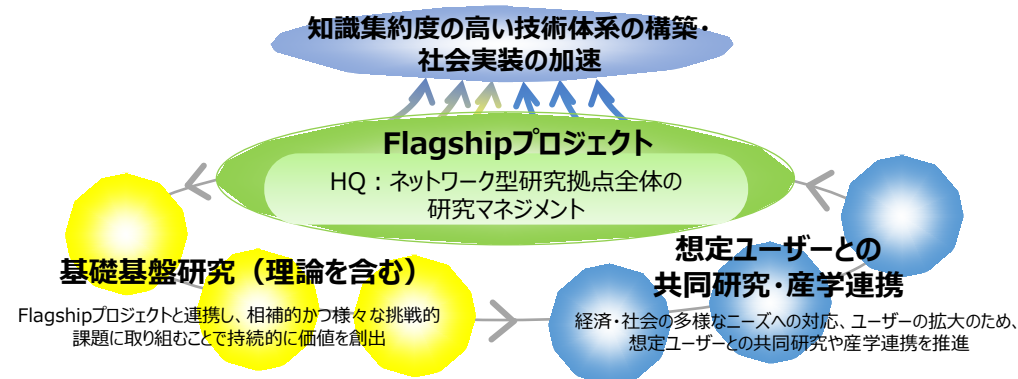
- ✓ 量子技術は、我が国が将来にわたり産業競争力や経済安全保障を確保する観点で重要な先端技術であり、産業創出を見据えた研究開発の促進が急務。
- ✓ 産業創出に向けた強固な国内基盤を構築すべく、国産超伝導型量子コンピュータの研究開発や固体量子センサの高精度制御による革新的センサシステムの創出等を推進するとともに、量子技術分野の研究開発を担う幅広い人材育成等を通じて、次世代量子人材や分野融合人材の育成を強化し、量子エコシステムの確立を強力に推進。

## 事業内容

経済・社会的な重要課題に対し、量子科学技術を駆使して、非連続的な解決 (Quantum leap) を目指す

### 【事業概要・イメージ】

- ✓ 技術領域毎にPDを任命し、適確なベンチマークのもと、実施方針策定、予算配分等、きめ細かな進捗管理を実施
- ✓ Flagshipプロジェクトは、HQを置き研究拠点全体の研究開発マネジメントを事業期間を通じて、TRL6(プロトタイプによる実証) まで行い、企業 (ベンチャー含む) 等へ橋渡し
- ✓ 基礎基盤研究はFlagshipプロジェクトと相補的かつ挑戦的な研究課題を実施



### 【事業スキーム】

- ✓ 事業規模: 8~15億円程度/技術領域・年
- ✓ 事業期間(H30~): 最大10年間、ステージゲート評価の結果を踏まえ研究開発を変更又は中止



### 【対象技術領域】

(各領域の実施機関は令和7年12月現在)

#### 技術領域 1 量子情報処理 (主に量子シミュレータ・量子コンピュータ)

##### ◆ Flagshipプロジェクト (2件: 理研、大阪大)

- 国産量子コンピュータの研究開発を実施
- 画像診断、材料開発、創薬等に应用可能な量子AI技術を確立

##### ◆ 基礎基盤研究 (5件: 分子研、慶應大、大阪大、産総研、NII)

- 量子シミュレータ、量子ソフトウェア等の研究



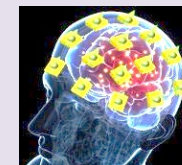
#### 技術領域 2 量子計測・センシング

##### ◆ Flagshipプロジェクト (2件: 東京科学大、QST)

- ダイヤモンドNVセンタを用いた脳磁等の計測システムを開発し、室温で磁場等の高感度計測を実現
- 代謝のリアルタイムイメージング等による量子生命技術を実現

##### ◆ 基礎基盤研究 (5件: 京大、東大、電通大<2件>、NIMS)

- 量子もつれ光センサ、量子慣性センサ等の研究



#### 技術領域 3 次世代レーザー

##### ◆ Flagshipプロジェクト (1件: 東大)

- ①アト( $10^{-18}$ )秒スケールの極短パルスレーザー光源等の開発
- ②CPS型レーザー加工にむけた加工学理等を活用したシミュレータの開発

##### ◆ 基礎基盤研究 (4件: 大阪大、京大、東北大、QST)

- 強相関量子物質のアト秒ダイナミクス解明、先端ビームオペランド計測等の研究



#### 領域 4 人材育成 (4件: 民間企業等)

- 量子エンジニアリング人材及び次世代を担う量子人材や、分野融合人材の育成を強化するため、量子技術に関するカリキュラムの開発や産学連携プログラムを実施

(担当: 研究振興局基礎・基盤研究課量子研究推進室)

# マテリアル・イノベーション創出に向けた マテリアル革新力の強化



文部科学省

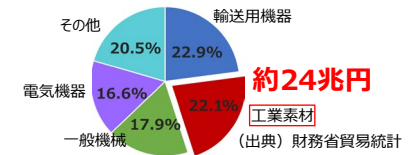
令和8年度予算額（案）	181億円
（前年度予算額）	183億円
令和7年度補正予算額	45億円

## 現状・課題

- 産業課題・社会課題を解決に導く分野横断的な基盤であるマテリアル分野は、量子・AI・バイオ・半導体・フュージョンといった**先端技術の発展に必須**であるとともに、我が国が**高い技術力や産業シェア**を有するなど、**産学で世界的に優位性**を保持する分野。
- 一方、近年では我が国を取り巻く国際情勢が激変し、経済安全保障の確保等の新たな対応が必要となっている中で、アカデミアの研究力は相対的に低下しているところ、**世界で勝ち続けるためには、我が国の強みである良質な実験データ、高度な研究施設・設備、多様な人材を生かし、データやAIを活用した研究のデジタルトランスフォーメーション（DX）による研究開発の効率化・高速化・高度化を実現するとともに、マテリアル・イノベーションを絶えず生み出す源泉となる卓越したサイエンスやテクノロジーを創出する体制づくりが急務である。**

## ○輸出総額の2割以上がマテリアル

<2024年輸出総額（109兆円）内訳>



## 【新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2025年改訂版】（令和7年6月13日閣議決定）

マテリアル分野においてアカデミアの優れた知が産業界へとつながる「知のバリューチェーン」の構築を通じて我が国が勝ち続けるための新たな国家戦略に基づき、A I・ロボティクス等との融合によるマテリアルDXや革新的マテリアルの研究開発・社会実装の加速、先端共用設備等の研究基盤整備、人材育成等に強力に取り組む。

## 【統合イノベーション戦略2025】（令和7年6月13日閣議決定）

- マテリアルは、分野横断的な基盤技術であるとともに、A I、バイオ、量子、半導体、電池等といった幅広い分野に飛躍的な技術の進展をもたらす、イノベーションを先導する重要な要素である。「マテリアル革新力強化戦略（令和7年6月4日統合イノベーション戦略推進会議決定）」に基づき、知のバリューチェーンの構築を通じてマテリアル・イノベーションを絶えず創出し、我が国の基幹産業であるマテリアル産業で勝ち続け、複合化する様々な社会課題に対応していく。
- マテリアル・イノベーションの加速のため、A I・ロボティクスと融合した自動・自律実験システム等によるマテリアルDXを更に推進する。マテリアルデータ基盤を拡充するとともに、利活用を進め、データ駆動型研究開発による成果の創出を推進する。「知」の橋渡しによるイノベーション創出のため、我が国の強みである多様なプレイヤーの連携を進めるとともに、マテリアル分野のスタートアップ育成エコシステムの構築を進める。
- マテリアル・イノベーションの継続的な創出のため、基礎基盤的研究や人材育成、先端共用設備等の研究基盤整備を推進する。

## 事業内容

- マテリアル分野の研究DXに向けて、研究データの①**創出**、②**統合・管理**、③**利活用**までを一体的に推進する**マテリアルDXプラットフォーム**を構築。令和7年に改定された「マテリアル革新力強化戦略」を踏まえ、創出されたデータを機関の枠組みを超えて**共用・利活用**する仕組みを充実・強化するとともに、多様なプレイヤーの参画と連携を促進。さらに**AI for Materials**を推進し、AI等を活用した**次世代のデータ駆動型研究方法を確立・普及**することで、革新的なマテリアルの創出を図る。

※[]内は令和7年度補正予算額

### ①データ創出

- **マテリアル先端リサーチインフラ（ARIM）** 21.9億円（21.9億円）[10.1億円]  
実施機関：R3～R12、採択件数：大学・国研等（26件） ※半導体基盤プラットフォームの構築を含む  
全国26の大学等において**先端設備の全国的な共用体制を整備**しながら、創出したデータを収集・蓄積することで、**データの共用・利活用を推進**。産学からのニーズが高い領域に関連するAI駆動・ハイスループット対応に資する先端共用設備の整備・高度化を図る。

### ②データ統合・管理

- **NIMSにおけるデータ中核拠点の形成** 8.2億円（8.2億円）  
※NIMS運営費交付金中の推計額  
ARIM等で創出されたデータをセキュアな環境で蓄積・共用し、**AI解析が可能なシステムを実現**。令和7年度から当該システムやツール群を用いたデータ共用・利活用の運用を開始しており、**データやAIを駆使**した材料開発の効率化・高速化を引き続き推進。

### ③データ利活用

- **データ創出・活用型マテリアル研究開発プロジェクト（DxMT）** 13.9億円（13.6億円）  
実施機関：R4～R12、採択件数：大学・国研（5件）  
従来の試行・経験型の研究開発手法に**AI・データ活用によるデータ駆動型研究**を取り入れた次世代の研究方法を開発。研究成果の社会実装を見据え、産学の連携体制を構築し、**革新的なマテリアルの創出**を目指す。
- **NIMSにおけるデータ駆動型研究の推進** 34.9億円（36.1億円）[1.1億円]  
※NIMS運営費交付金中の推計額  
国際競争力の源泉となる技術基盤の構築に向け、中長期計画に基づく拠点研究プロジェクトや政府課題に対応する重点研究プロジェクトを通じて、**AI・データの活用による革新的マテリアルの研究開発**を引き続き推進。

### ④人材育成・研究拠点整備等

- **NIMSの機能強化に向けた取組等** 102.3億円（103.2億円）[33.5億円]  
※NIMS運営費交付金中の推計額含む  
マテリアル分野において我が国が世界を先導すべく、職員の処遇改善等を実施することで**優秀な人材の育成・確保**を図る。さらに、**研究成果の社会実装や国際連携**を推進するとともに**研究環境を整備**することで、経済安全保障上重要なマテリアルの研究開発を加速。

# 健康・医療分野の研究開発の推進

令和8年度予算額（案） 852億円  
（前年度予算額 850億円）

※運営費交付金中の推計額含む  
（うちAMED予算額（案） 583億円（前年度予算額 583億円）） 文部科学省



令和7年度補正予算額 176億円

## 背景・概要

- 「**経済財政運営と改革の基本方針2025**」、**「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版**」（令和7年6月閣議決定）等に基づき、AI駆動型生命科学研究を加速するオールジャパンの体制の構築やバイオバンク・ネットワーク連携強化・利活用推進等の**ライフサイエンス研究の****変革に資するAI・情報基盤の整備**や、創薬力向上に向けた研究開発、**感染症有事に備えた体制整備・研究開発**を推進。
- 認知症等の克服につながる**脳神経科学研究**や「世代をつなぐ生命科学」等の**ライフ・コースに着目した研究開発**を推進。

## AI・研究データを活用したライフサイエンス研究の革新

- **次世代医療実現バイオバンク利活用プログラム 41億円（新規）**  
【令和7年度補正予算額 43億円】  
バイオバンクの利活用促進により革新的な創薬等の次世代医療を実現するため、**臨床情報等の充実したバイオバンク・コホート基盤を整備**し、試料・情報を用いた**データ駆動型研究**やそれらを支える**研究基盤を強化**。
- **生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS） 37億円（36億円）**  
ライフサイエンス研究における大規模解析のための**先端研究基盤**を整備・維持・共用することにより、生命科学・創薬研究における**測定・解析の高度化・効率化**を推進。
- **ライフサイエンス研究基盤整備事業 18億円（16億円）**  
【令和7年度補正予算額 1億円】  
**AI for Science**による**科学研究革新プログラム**【令和7年度補正予算額 370億円】の中でもライフサイエンス分野のAI for Scienceの取組を実施。

## 創薬力向上に向けた研究開発の推進

- **橋渡し研究プログラム 54億円（54億円）**  
FIH試験実施に向けた支援を充実するため、**橋渡し研究支援機関を活用・強化**し、アカデミア等の優れたシーズの発掘や実用化への橋渡し研究を推進。
- **再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム 92億円（92億円）**  
**異分野連携やリバーstransレーショナルリサーチの推進**等により、将来的な実用化を見据えた**基礎的・基盤的な研究開発を強化**。
- **スマートバイオ創薬等研究支援事業 15億円（15億円）**  
アカデミアの技術シーズを活用し、基盤技術の開発と疾患への応用を推進するとともに、**アカデミア発の革新的な高機能バイオ医薬品の臨床ステージへの移行を支援**。

## 感染症有事に備えた体制整備・研究開発

- **感染症有事に備えた治療薬・診断薬の世界トップレベル研究開発拠点の形成事業【令和7年度補正予算額 70億円】**  
**感染症危機対応医薬品等（MCM）の開発**に資するため、アカデミアと産業界の戦略的連携の下で**研究開発及び人材育成等を推進する拠点を形成**。
- **新興・再興感染症研究基盤創生事業 20億円（22億円）**  
アジア・アフリカ・南米に設置している海外研究拠点の継続・発展による**モニタリング体制の基盤強化・充実**により、**感染症インテリジェンス強化に貢献**。

## ライフ・コースに着目した研究開発

- **脳神経科学統合プログラム 67億円（65億円）**【令和7年度補正予算額 2億円】  
**基礎・臨床の連結**や、**アカデミアと産業界との連携を強化**しつつ、精神・神経疾患の克服を目指して**革新的なシーズ創出、病態メカニズム解明**などを推進。
- **次世代がん医療加速化研究事業 36億円（35億円）**  
**免疫学や遺伝子工学、核医学などの多様な分野の先端技術を融合**させることで、革新的な医薬品の創生に資する基礎的研究を戦略的に推進。
- **「世代をつなぐ生命科学」に関する研究 106億円の内数（108億円の内数）**  
※理研運営費交付金推計額

## ライフサイエンスを支える基礎研究・国際展開等

- 医療機器等研究成果展開事業 11億円（11億円）
- 革新的先端研究開発支援事業 111億円（110億円）
- ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム 18億円（18億円）
- 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業 8億円（9億円）  
うち、先端国際共同研究推進プログラム（ASPIRE）【令和7年度補正予算額 59億円】

# 研究力の抜本的強化による『科学の再興』の実現

令和8年度予算額（案）

2兆35億円

（前年度予算額

1兆9,744億円）

※運営費交付金中の推計額含む



文部科学省

令和7年度補正予算額

4,774億円

○ 令和8年度から始まる次期科学技術・イノベーション基本計画に向けて「新技術立国」の実現に資する**我が国の科学を再興し、科学を基盤として我が国の将来を切り拓く**。このため、我が国が**新たな「知」を豊富に生み出し続ける状態を実現し、我が国の基礎研究・学術研究の国際的な優位性を取り戻すべく、（i）新たな研究分野の開拓・先導、（ii）国際的な最新の研究動向の牽引、（iii）国内外や次世代が魅力的に感じる環境を実現するために以下の取組を実施。**

※ [] 内は令和7年度補正予算額

## 1. 新たな研究領域の継続的な創造

若手研究者を中心に既存の学問体系に捉われないチャレンジングな研究への挑戦を後押しし、新興・融合領域の研究を推進

- ・ 科研費・創発事業による若手・新領域支援の一体改革（若手研究者を中心とした挑戦的・国際的・創発的研究への支援）2,479億円（2,379億円） [433億円]
- ・ 新技術シーズの創出につながる研究を組織・分野を超えて戦略的に支援 441億円（438億円）等

## 2. 国際ネットワークの構築

日本人研究者・学生の送り出しの強化を行うとともに、国内外への開放性を持った魅力ある研究環境の構築に向けた取組を実施

- ・ 先端国際共同研究・交流の抜本的強化 [559億円]
  - ・ 優れた若手研究者の海外派遣の支援 28億円（28億円）
  - ・ 世界トップレベルの国際的な研究拠点の形成 72億円（72億円）
  - ・ 世界の学術フロンティアを先導する大規模プロジェクト（注1） 340億円（340億円） [92億円]
- （注1）一部の金額が国立大学法人運営費交付金と重複
- 等  
〔ホライズン・ヨーロッパへの準参加については、内閣府において関係省庁分を一括して措置（新規）〕

## 3. 科学技術人材の育成・活躍促進

全ての基盤となる「科学技術人材」への投資を抜本的に拡充。産業ニーズ等も踏まえつつ、多様な場・機会での活躍を拡大するとともに、次世代の人材育成を強化

- ・ 優れた博士課程学生・若手研究者の活躍促進（特別研究員制度） 164億円（163億円）
  - ※その他、博士課程学生に対しては、次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）による経済的支援も実施
  - ・ 重要技術領域での研究者等の人材供給拡大（産業・科学革新人材事業） [270億円]
  - ・ 次世代を担う科学技術人材育成（SSH等）の強化 40億円（40億円）
  - ・ 成長分野への大学等の組織再編の支援（大学・高専機能強化支援事業） [200億円]
- ※既存分と合わせて1,000億円規模 等

## 4. 時代に即した研究環境の構築

### （4）－1 AI for Scienceによる科学研究の革新

戦略的かつスピード感を持ってAIイノベーションを推進し、多くの意欲ある研究者や先端的研究リソースのポテンシャルを最大化する研究システムの革新を実現

- ・ AI駆動型研究開発の強化 180億円（177億円） [490億円]
- ・ 「AI for Science」を支える次世代情報基盤の構築 11億円（11億円） [81億円]
- ・ 世界を先導する戦略的な産学・国際連携（TRIP-AGIS） 25億円の内数（25億円の内数） [28億円の内数] 等

### （4）－2 研究基盤の刷新

世界水準の魅力的な研究環境を実現するため、人材/資金の改革に加え、研究基盤の刷新に取り組む

- ・ 先端的な研究設備・機器の整備・共用・高度化を推進（先端研究基盤刷新事業(EPOCH)） [530億円]
- ・ 大型研究施設の整備・共用・高度化（SPRING-8、NanoTerasu、J-PARC、富岳 等） 492億円（491億円） [605億円] 等

## 5. 基盤的経費の確保と大学改革の一体的推進

大学改革の推進と併せて、人件費・物価の上昇等も踏まえつつ基盤的経費を確保するとともに、財源の多様化を進め、多様で厚みのある研究大学群への支援を強化

- ・ 国立大学法人運営費交付金 1兆971億円（1兆784億円） [486億円（注2）] ※国際卓越研究大学制度、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業を通じて、研究大学における研究力強化に向けた改革も推進
- （注2） 令和7年度補正予算額に国立大学法人設備整備費補助金（66億円）を含む
- ・ 国立大学法人等施設整備費補助金 364億円（364億円） [802億円] 等